

第1回勉強会（山地域）の開催報告

1. 実施概要

勉強会は、山・川・海の順番で行うものとし、第1回（山地域）を開催しました。運営については、市民会議の各部会役員が企画実施していくものとなりました。

当日の実施概要を以下に示します。

(1)実施概要

○実施日時：平成22年12月17日(金)

18:30～20:30

○会場：とよた市民活動センターホール

○参加者：50名（事務局含む）

(2)内容

【テーマ】

- ・流域の山と散村の現状・問題点を整理し、出発点を共有する

【プログラム】

1. 開会
2. 山側からの報告・問題提起
 - (1) 奥矢作森林塾の活動～山村再生の取り組み（奥矢作森林塾代表 大島光利氏）
 - (2) 生命の源流の地に生きる～百姓を育てる（BIO de BIO 代表 黒田武儀氏）
 - (3) 人工林問題に取り組む～ヤマの応援団づくり（矢作川水系森林ボランティア協議会副代表 稲垣久義氏）
3. 研究者からの問題提起・課題の整理（東京大学愛知演習林 林長 蔵治光一郎氏）
4. 参加者による意見交流
5. 閉会



講演の様子



意見交流の様子

(3)参加者出欠

	所属	氏名
市民会議	1 矢作川水系森林ボランティア協議会	稲垣 久義
	2 BIO de BIO	黒田 武儀
	3 奥矢作森林塾	大島 光利
	4 矢作川 川会議	碓 さくら
	5 矢作川森林塾	碓 伸夫
	6 伊勢・三河湾流域ネットワーク	松井 賢子
	7 個人	丹羽 八十
	8 個人	篠原 敏典
	9 西三河野鳥の会	高橋 伸夫
	10 矢作川環境技術研究会	野田 賢司
	11 矢作川学校	内田 良平
	12 矢作川学校	内田 朝子
	13 矢作川森林ボランティア協議会	西川 早人
	14 矢作川森林ボランティア協議会	安達 靖雄
	15 早川をよみがえらせる会	篠原 正樹
	16 豊田市自然愛護協会	光岡 金光
関係団体	1 岡崎森林組合	平松 繁
学識経験者	1 東京大学愛知演習林	蔵治 光一郎
	2 大同大学	鷺見 哲也
	3 豊橋技術科学大学	青木 伸一
	4 愛知県水産試験場内水面漁業研究所	宮川 宗記
行政	1 恵那市 林業振興課長	遠藤 博隆
	2 恵那市 林業振興課長補佐	熊谷 浩
	3 恵那市 林業振興課 林政係長	小栗 龍夫
	4 豊田市 建設部 河川課	林 哲夫
	5 豊田市 産業部 森林課	原田 裕保
	6 岐阜県 県土整備部 河川課 企画環境担当	角藤 祐紀
	7 環境省 中部地方環境事務所	伊藤 正市
	8 中部地方整備局 建政部 都市整備課	小池 仁
	9 中部地方整備局 豊橋河川事務所長	畠山 愼一
	10 中部地方整備局 豊橋河川事務所 副所長	鈴木 吉則
	11 中部地方整備局 豊橋河川事務所 事業対策官	溝口 敏明
	12 中部地方整備局 豊橋河川事務所 管理課長	長嶋 佳孝
	13 中部地方整備局 豊橋河川事務所 流水調整課長	末松 隆夫
	14 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課長	武田 真吾
	15 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課 専門職	宇野 利幸
	16 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課 専門調査員	日比野 修
	17 中部地方整備局 矢作ダム管理所 建設専門官	伊藤 真也
	18 中部地方整備局 矢作ダム管理所	山下 裕也
	19 事務局補佐 建設技術研究所	牛来 司
	20 事務局補佐 建設技術研究所	土屋 信夫
傍聴		9名

2. 講演内容

【奥矢作森林塾の活動～山村再生の取り組み：奥矢作森林塾代表 大島光利氏】

- ・ 矢作ダム上流5 kmのところ、山林再生と水質保全を目的として、山林診断（間伐事業）、流木の炭焼き、木炭による上流河川の水質保全などを行っている。
- ・ また、小学生によるホタルの放流やスポーツ少年団による中馬街道の整備、地場の木材を使うためのリフォーム塾や援農隊事業なども行っている。
- ・ 今後の課題としては、中下流の人たちとのネットワークを結び、より山を再生し、きれいな水を下流に供給したい。

（講演に対する意見）

- ・ 活動を行っていくための資金をどのように確保しているのか。
 - スタッフはすべてボランティアで活動している。
 - 運営にあたっては、奥矢作レクリエーションセンターの指定管理者となっている他、国交省、農水省、恵那市からの助成金をもらっている。

【生命の源流の地に生きる～百姓を育てる：BIO de BIO 代表 黒田武儀氏】

- ・ 山あいには置かれた棚田の再生の取り組み＝「エコ田んぼ」が、NHKの「金とく」でおおよそ1年間にわたり放映された。
- ・ この活動は、山の百姓が日常の営為として、山を守り、水を育てていることを思い起こし、同時に、山や水に対する百姓の「流儀」や「作法」を学び、広く都市の市民にも伝えることを目的に行ってきた。
- ・ 山の田んぼは、ダムであり、棚田の保全は、治水・治山にほかならない。つい30年位前までの百姓は、田んぼをつくることを、採算性で計ったことはなく、何よりもまず家族のための食料確保が第一の目的であり、余った分を売って現金収入にしてきた。利用価値と交換経済が支配的な村の暮らしに、都市型の貨幣経済と貨幣価値が一挙に押し寄せてきて、あっという間に、山の田んぼは捨てられていった。
- ・ たんぼだけでなく、山に対しても、このような $+\alpha$ の利用価値と交換経済的な考え方で接する必要があると思う。NP OBIO de BIOでは、切捨て間伐はしていない。除伐したり間伐した木は、暮らしの中で、杭や棒、はさ木、薪、土留め材、薪炭原材料、小屋がけや納屋などの建築用材などに可能な限り利用した残りは、搬出して売ることを実践している。
- ・ 私たちの暮らしそのもののありかたを、このように方向転換しなければ、いつまで経っても、切捨て間伐はやむをえないという議論を克服できない。
- ・ 水は、自然にあるものではなく、百姓がつくっていることを、都市の市民に訴えたい。

（講演に対する意見）

- ・ これまで、農業を壊して工業化してきた。今後は、工業が農業を支援すべきではなのか。
 - 昔の農家は、第二種兼業農家だった。私もレオンバイク（マウンテンバイクの生産会社）を立ち上げ、工場は5日間操業するが、働き手は3日間は工場、残りの4日間は、第二種兼業農家として百姓仕事をすることにしている。
 - 単機能で生きる農業者に対して、多機能で生きるのが百姓である。

【人工林問題に取り組む～ヤマの応援団づくり： 矢作川水系森林ボランティア協議会副代表 稲垣久義氏】

- ・ 矢作川水系森林ボランティア協議会は、山の応援団であり、12のグループで構成されている。主な活動としては、山里協働間伐モデル林事業と森の健康診断を行っている。
- ・ 小規模の山主は、素人の人が多く、山里協働間伐モデル林事業を通じて、一緒に人工林の間伐を行い、山を元気にしている。
- ・ 森の健康診断については、子供にまで活動を広げており、座学や調査だけでなく、実際に、木を手のこで切るなど生で感じてもらうことが重要であると思う。

(講演に対する意見)

- ・ 体験した子供たちがどうしたら山に戻ってくるのか、何かアイデアはあるか。
 - 活動を通じて何を感じ取るかは個人差があり、特に何もとめてはいない。
 - (戻ってくるような) きっかけを与えれば良いと思う。

【研究者からの問題提起・課題の整理：東京大学愛知演習林 林長 蔵治光一郎氏】

- ・ なぜ、川にとって山や森林が大切なのかについて、出発点を共有したい。
- ・ 川から山へのリクエストと山から川へのリクエストのマッチングを行っていくことが必要。
- ・ 矢作川流域圏は、3県にまたがっていること、どの県にとっても県の中心的地域でないこと、流域と市町村境界が合っていないことなど、難しい面があるが、そのことが逆にエネルギーになるのではないか。
- ・ このような越境する課題とみんながハッピーになる課題と、その解決策をみんなで考えていきたい。

(講演に対する意見)

- ・ 海の人も山を見ないと海はきれいにならないと思う。
 - 山は有利な立場にあったことから、なかなか下流には出ていけなかった。今後、上流も下流へアプローチしてマッチングできないかと考えている。
- ・ 山村社会はすでに崩壊している。豊根村は、全村の子供を全員あつめてもマイクロバス1台にしかない。このような現状をどうすべきなのか。

3. 意見交流

- ・ 山村社会が崩壊して何が悪いかという意見を持った人もいる。このような意見に対してどう思うのか
 - 山は絶対必要である。少しの雨でもものすごく砂が流れ込むので、矢作ダム洪水調整機能が少なくなっている。これは、下流の問題でもあり、早急に山を再生しなければならない。
- ・ (山にどうやって子供が戻ってくるのかという問いに対して) エコ田んぼ隊の撮影には来なかった高校生が、家族が一生懸命、農作業をしている姿を見て、ある日突然、進学相談にきて、農学部を希望した。また、14年前にマウンテンバイクの振興活動をしていたときに中学生だった子供たちが大人になって3人かえってきたという話もある。山の立場の

人間は、このような働きかけをしなければならない。

- ・ 若い人たちに農山村で暮らしたいという意識がでてきたこととそれを組織化しようということとは特筆すべきこと。豊田市では、都市と農山村の交流のネットワークもでてきた。今後も森の大切さを訴えていきたい。
- ・ 次回の勉強会では、ぜひ山に入りたいと思うがどうか。
 - 拍手で了承された。
- ・ 山を守るといった場合、人工林の適切な管理が問題とっているが、自然林はそのままでも問題はないのか。
 - 自然林の場合、どのような価値を求めるかによって課題が異なっており、価値観の調整をどうしていくかが問題。そのため、すべてに共通な方向性は打ち出しにくい。一方、人工林は、放置することが木材生産にとっても公益的機能にとってもマイナスであることが明らかなので、関係者の合意が形成されやすく、優先順位が高くなっているのが実態である。
- ・ 行政にお願いしたいのは、第二種兼業農家がある程度生活できるようなことを提案したい。
 - 行政にすべて解決してほしいという依存体質が問題。また、1人1人が農家を尊敬していないことも問題だと思う。消費行動で農家を守るべきである。
- ・ 森林は、環境面だけでなく、木材生産の面でも重要である。ただし、人工林は、手を入れないとただの荒れた山なので、まちの人の協力を得て、最低限の間伐をしたい。森林の所有者から見ると切捨て間伐も、山の肥料になり無駄ではないと思う。
 - 切捨て間伐は、木材生産の面からムダではなく、環境にとっても悪いことではない。一方、丸太、立木を適切な対価で売ることによって山の生活が成り立つ側面もあり、場面に応じて考えていくことが必要である。